

瑠璃蜥蜴さみしからずや息合はそ

藤田湘子

藤田湘子の句集で一番好きなものはと尋ねられたら、今の私は、迷わず第十句集の『神楽』と答える。

『神楽』の句は実に自在で、どの句も生きいきしているように感じられる。俳人にとって齢を経るとは、こういうことなのかと、実に羨ましく見事でもある。

與謝野晶子が「やは肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君」と詠ったのは二十代の頃。

一方、湘子が「さみしからずや息合はそ」と詠ったのは七十歳。この句の前後には、蠅や蜘蛛やきりぎりすなど小動物が次々と登場し、とても賑やかである。現実の写生から集めたエネルギーか、俳句の言葉から生まれた命か。湘子の周りの生き物たちはいつも燦めいていた。

1996年(58作) 第十句集『神楽』 鑑賞・轍郁摩